

令和6年度 第4学年 授業改善プラン

文京区立駕籠町小学校

	児童の実態及び課題	○中心とする単元 ◆カリキュラムデザイン	授業改善に向けての具体的な手立て	◎ 成果 ● 課題
知識・技能	<p><社会></p> <ul style="list-style-type: none"> 知識として知っていることで満足しがちである。自分の実生活と繋げて社会的事象に自分も関わっている意識をもたせ、使える知識にしていく必要がある。 	<p><社会></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「自然災害から人々を守る」 <p><総合></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「命を守る！ ～地震に備え、わたしたちにできること～」 <p><行事></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆防災宿泊 	<p>教材の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象と自分とのつながりを意識できるように、文京区の事例を資料として取り上げるなど、教材の工夫をする。 <p>学習活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な問題として考えられるように、家庭での経験や取り組みについて調査活動を行うなど、活動の工夫をする。 	
思考力・判断力・表現力等	<p><国語></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えについて、理由を明確にして書くことが難しい児童がいる。 <p><理科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「予想・仮説」の場面において、何となくの予想に終止し、既習事項や生活経験などを基にした根拠のある仮説を立てることができない。 	<p><国語></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「未来につなぐ工芸品」 「工芸品のみりよくを伝えよう」 <p><理科></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「物のあたたまりかた」 	<p>教材の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明的文章の文章構成を捉え、筆者の主張を読み取り、文章の型を習得することで、自分のまとめの書き方に生かせるようにする。 <p>事象提示の工夫・課題解決の必然性をもたせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通の体験をさせることで、それをもとに学習問題の設定や具体的に予想・解説ができるようにする。 	
学びに向かう力・人間性等	<p><全教科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・めあてを立て、学習に取り組み、終末に振り返りをする習慣は身に付いているが、次の時間に具体的に自分がどうしたいのか、どこをどのように意識して学習活動に向き合うのか、めあてが具体的ではない児童がいる。 	<p><国語></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ごんぎつね」 <p><体育></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「跳び箱運動」 	<p>めあてと振り返りの書き方の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めあてや振り返りについて、より具体的になるように書き方の型を示す。また、範となる児童の記述を紹介して、全体に広げていく。 	